

大阪作業療法 ジャーナル

Journal of the Osaka
Occupational Therapy Association : JOOTA

特集

「はたらく」の話をしよう

巻頭言	石丸 大貴	87
特集 目次		88
はじめに	寺村 肇・吉川ひろみ	90
1章 「OTがはたらく」	市田 薫・本多 伸行・金川 善衛・永田 作馬	97
2章 「関わりながらはたらく」	吉田 篤史・赤澤 育実・辻 薫・武平 孝子	110
3章 「当事者がはたらく」	木寺 真菜・井谷 歩・芳賀 大輔・金山 達也	117
おわりに	寺村 肇	125
明日から使える評価方法		
生活行為工程分析表 (PADA-D)	田平 隆行	129
ADL 観察から神経行動学的障害を同定することが可能な評価 Árnadóttir OT-ADL Neurobehavioral Evaluation (The ADL-focused Occupation-based Neurobehavioral Evaluation) (A-ONE)	東 泰弘	140
書評カフェ	中西 遥・山本 愛也・高岡 夏実	145
となりの街の作業療法士		
精神科デイケアとリカバリー支援 ～15年の歩みを振り返って～	高野 隼	149
ちっちゃな摂津のでっかな野望! 地域で輝く作業療法士たち	中野 皓介	154
実践報告		
Zone I、IIにおける手指屈筋腱修復術後の深指屈筋腱癒着に対する ブロックボードを使用したハンドセラピィの効果	辻 陽平	161

Vol. 36 No. 2
Jan 2023

OT
SAKA

(一社)大阪府作業療法士会

大阪作業療法ジャーナル

第36巻 第2号

巻頭言	石丸 大貴 …… 87
特集:「はたらく」の話をしよう	
目次	…… 88
はじめに	
さあ「はたらく」について語ろう	寺村 肇 …… 90
寄稿 「はたらく」の話をしよう	吉川ひろみ …… 91
1章 「OTがはたらく」	
「はたらく」ことは「生きること」	市田 薫 …… 97
キャンパスに描く「はたらく」から学ぶ	本多 伸行 …… 100
「はたらく」を支援する者として、自身の「はたらく」を語る	金川 善衛 …… 104
「はたらく」ために「つながる」	永田 作馬 …… 107
2章 「関わりながらはたらく」	
場と人のダイナミクスが「はたらく」	吉田 篤史 …… 110
「はたらく」3年目のナラティブから学ぶ したい、する必要のある作業を可能にする 作業療法士の「はたらく」が見えてきた	赤澤 育実・辻 薫 …… 112
「はたらく」意思から学ぶ	武平 孝子 …… 115
3章 「当事者がはたらく」	
「できません」から「はたらきたい」へ	木寺 真菜 …… 117
語る・気づく「はたらく」を続ける価値	井谷 歩 …… 119
支援する立場から職場の同僚になっての変化、 支援される側が感じる作業療法士との関係性の変化	芳賀 大輔・金山 達也 …… 122
おわりに	
さあ「作業療法」について語ろう	寺村 肇 …… 125
明日から使える評価方法	
生活行為工程分析表(PADA-D)	田平 隆行 …… 129
ADL 観察から神経行動学的障害を同定することが可能な評価 Árnadóttir OT-ADL Neurobehavioral Evaluation (The ADL-focused Occupation-based Neurobehavioral Evaluation) (A-ONE)	東 泰弘 …… 140
書評カフェ	中西 遙・山本 愛也・高岡 夏実 …… 145

となりの街の作業療法士

- 精神科デイケアとリハビリ支援 ～15年の歩みを振り返って～ 高野 隼 …… 149
ちっちゃな摂津のでっかな野望！地域で輝く作業療法士たち 中野 皓介 …… 154

実践報告

- Zone I、IIにおける手指屈筋腱修復術後の深指屈筋腱癒着に対する
ブロックボードを使用したハンドセラピーの効果 辻 陽平 …… 161

投稿規定 …… 165

著作権規定 …… 167

執筆要領 …… 169

投稿論文チェックシート …… 171

編集後記・部員名簿 …… 172

巻頭言

「はたらくとは何か？」を考える

石丸 大貴

大阪大学医学部附属病院
医療技術部リハビリ部門 神経科・精神科

このたび編集委員会からのご依頼により、巻頭言を執筆する機会を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

「はたらくを支援する」と聴くと、多くの作業療法士は就労支援を思い浮かべることだろうと思われまふ。就労支援については、脳卒中や上肢骨折のような身体科領域だけでなく、統合失調症や気分障害のような精神科領域、あるいは若年性認知症のような老年期領域など、幅広い領域を横断するようなテーマになります。対象者の状態像や疾患特性によっても、提供する就労支援の形や求められる課題は多岐に渡り、非常に難解なテーマであることは想像に難くありません。臨床実践の場において、対象者の就労継続・再開の支援に悩んでいるであろう作業療法士は決して少数ではなく、私もそのうちのひとりになります。

就労支援を進めていく上で必要なアセスメント・介入手続きは諸々ありますが、そのようなアセスメント・支援を進めていく前にまず作業療法士が考えるべきことは、「なぜはたらくたいのか？ どうしてはたらく必要があるのか？」という対象者の想いを捉えることであるだろうと個人的には思っています。はたらく理由や意義としては、経済的に安心するため・家族を養うためといった手段的な側面だけでなく、ときに生きがいを得るため・誰かの役に立ちたいためといった目的的な側面も関与していると思われまふし、それぞれの側面が相互に影響している部分もあるでしょう。作業療法としては、このような「はたらく」という作業活動の意味を丁寧かつ詳細に評価することが重要であり、そのような評価を踏まえた支援が対象者の望ましい生活の獲得に繋がるのではないかと考えられます。

今回の特集については、大阪府作業療法士会の就労支援特設委員会のメンバーにご執筆頂きました。内容はナラティブなものとなっていますが、「はたらく」という対象者の作業を支援するために必要となる視点が存分に盛り込まれた特集になっていると思われまふ。作業療法士ひとりが経験できる臨床実践や就労支援の経験には限界がありますので、ほかの作業療法士のナラティブな経験談に触れることは自身の視点や思考を養う機会になってくれるかもしれません。さらには、各原稿にQRコードを添付し、読者と著者が相互交流できる新たな取り組みを本巻号に導入しました。一方向性の情報収集だけでなく、著者や他の読者と活発な意見交換をして頂き、読者・著者の双方にとって有意義な機会となりましたら幸いです。本特集が「はたらくとは何か？」について読者の皆様の洞察を深める一助の資料となることを願います。

特集:「はたらく」の話をしよう 目次

「はたらく」の話をしよう 完全攻略ガイド(目次)

要 旨

この企画の楽しみ方は、読者の皆さんがそれぞれ自由に読み解いて良いということです。ここに記されている11の物語の主人公は作業療法士自身であったり、クライアントであったり、その家族や大切なひとかもしれません。どの物語もナラティブな語りを基調としているので、初めから定められた結論や正しい答えが存在しないものなのです。一つの物語を、多様性をもって複眼的にとらえる。作業療法の基本と言えば基本ですが、それを紙面上で実践しようとする実験的な試みでもあります。また、もう一つの試みとして、読み終えた人がレビューを書き込めるというインタラクティブな仕掛けもご用意しています。従来の読んで終わりというスタイルを変え、読むことを始まりとして、どんどんと想いをシェアしていきましょう。感想や著者への質問もOK！レビューサイトへは、各タイトル横のQRコードからお進みください。またレビューサイトにはショートムービーもありますので、ご覧ください。レビューサイト、ショートムービーともに2023年3月末までの限定です。

どの章、どの物語から読み進めていただいても構いません。慣例にとらわれず、後書きから読んでいくのも面白いでしょう。一人ひとり自由な読み方を是非お楽しみください。

はじめに

さあ「はたらく」について語ろう

寺村 肇(大阪府作業療法士会 就労支援特設委員会 委員長)

寄稿 「はたらく」の話をしよう

吉川 ひろみ(県立広島大学)

1章 「OT がはたらく」

「はたらく」ことは「生きること」

市田 薫(社会福祉法人ふらっぷ)

作業療法士を目指すと思った日は、あなたにとってどんな日だったのだろう。その想いは学校生活や実習を通じてどこでどんな風が変わっていったのだろう。筆者の想いに触れながら、あの日あの時の自分と対話を始めてみませんか。

キャンパスに描く「はたらく」から学ぶ

本多 伸行(関西福祉科学大学)

今の学生は一人ひとりそれぞれの物語を持っている。何となく職を選択した僕らとは違う、はっきりとした世代。「作業療法とは何か？」に答えを持って、「だから作業療法士を目指した。」と言える世代。新しき世代とどう対話するのは、あなた次第です。

「はたらく」を支援する者として、自身の「はたらく」を語る 金川 善衛(就労支援センターオンワーク)

誰もが通る、3~4年目くらいが一番イキってた時代。日々、作業療法を人には説いておきながら、自ら腹落ちする言葉を持たず、モヤモヤしたあの頃。僕らはどこで誰と語り合えば良かったのだろう。だから今、もう一度、あの日に戻ろう。語る相手がいるという安心は対話から生まれる。

「はたらく」ために「つながる」

永田 作馬 (医療法人大植会 葛城病院)

「貴方にはできるけども、私には無理…」と最初からできないと否定してしまうことがある。対象者と一緒になって悩んでいたら自分もしんどくなるからって、仕事と自分の間に線を引いて安心している。一步、その線を跨いでみよう。ほんのちょっと勇気を出してみよう。

2章 「関わりながらはたらく」

場と人のダイナミクスが「はたらく」

吉田 篤史 (医療法人大植会 葛城病院)

そんなにええことばかり…という話がここにある。当事者として苦勞したあれこれが、回りまわって次の誰かを救い、その場に居合わせた若手の作業療法士もまた育つという良くできた話。人が人にはたらきかけ、人が人を育てるといふ真理について語るのはどうだろう。

「はたらく」3年目のナラティブから学ぶ

したい、する必要のある作業を可能にする作業療法士の「はたらく」が見えてきた

赤澤 育実 (大阪総合発達療育センター)、辻 薫 (大阪人間科学大学)

夕暮れ時、公園からの帰り道。母と流した涙はいつもより温かい。物言わぬ子どもが示した明確な意思。その心にアクセスしようと苦悩する若手作業療法士。この三者が織りなす「はたらく」について語ってみよう。自分の感度は鈍ってないか？上を向き、背筋を正すには絶好の物語。

「はたらく」意思から学ぶ

武平 孝子 (八尾はあとふる病院)

作業療法士が持つエビデンスという名の錯覚。階段の1段目を登れなければ、当然2段目、3段目は登れないというロジック。2段飛ばしで駆け上がった子どもの頃を思い出してみよう。医学モデルに浸かり過ぎた私たちの、思考の落とし穴を見つけるクリティカルシンキング入門編。

3章 「当事者がはたらく」

「できません」から「はたらくたい」へ

木寺 真菜 (アクティブ訪問看護ステーション泉北)

「わからん。」「できへん。」を「できへんねんな。」で終わらせず、その根本を想うチカラ。状況が膠着するはずの3年目でも、ココロが動くときカラダは動き出す。やがてその人の行動は、周囲の人々をも変えていく大きなチカラに。語りどころ満載の一本です。

語る・気づく「はたらく」を続ける価値

井谷 歩 (ヤンマーシンピオシス株式会社)

障害者と一緒に働く。作業療法士は、この言葉の真意や矛盾を説明できるのか。彼らの「はたらく」は私たちのそれとそんなに違うのか。機会の平等と利潤の追求という二律背反は美談では終わらない。彼らが語る「はたらく」に耳を傾け、共に語り合おう。

支援する立場から職場の同僚になっての変化、支援される側が感じる作業療法士との関係性の変化

芳賀 大輔 (ワンモア豊中/千里中央)、金山 達也 (ワンモア豊中ピアスタッフ)

困っている人を助けることは親切です。困っている状況に対して安易に手助けすることは不親切です。共に「はたらく」という関係性の中で改めて問われる合理的配慮とは何か。作業療法士が陥りやすい、ある種の自己満足を見直すための格好の処方箋。

おわりに

さあ「作業療法」について語ろう

寺村 肇 (株式会社 Omitas)

大阪作業療法ジャーナル
第36巻 第2号

発行人：関本 充史

(一社)大阪府作業療法士会

〒540-0004 大阪市中央区玉造2-16-8 玉造井上ビル6階

TEL：06-6765-3375 FAX：06-6765-3376

URL：http://osaka-ot.jp E-mail：jimu@osaka-ot.jp

出 版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

